

金型をコアに、業容拡大、海外展開を狙う

- 海外発注可
- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- オールワン技術
- メイドインジャパン
- 試作可
小ロット
- 量産対応



アンダーホールナット

業務内容
プラスチック金型が主力、メンテナンス需要にも対応

プラスチック成形用の金型製造が中心。金型重量20kgから10tクラスまで製造できる。製造業の海外シフトに伴って金型分野は早くから海外展開が進んでいる。このため同社は、顧客の要望に応じて、中国や韓国での海外金型調達にも対応している。また増大している金型のメンテナンス需要に対応するため、メンテナンスを専門に行う第2工場も設置している。

強み
プラスチックの
ことなら何でもできる

森山康賢常務は「プラスチックに関するよろず屋」を標榜し、プラ成形に関わることなら何でもできる技術を提供している。社員に対しても「できない理由よりできる方法を考えよ」「どうせやるなら楽しくやろう」をモットーに、難しい金型加工にも挑戦する。社員は10代から70代まで年齢層は多様で、若いパワーと老練な経験に裏打ちされた、高い技術力を誇り、顧客の厚い信頼を得ている。社風としては、風通しが良く社員が何でも発言できる環境を作り上げた。社員が自ら考えて行った結果であれば、失敗もいとわない。昔ながらの技能伝承だけではなく、積極的な挑戦を促す職場環境を整えている。

独自開発
樹脂製ゆるみ止め
ナットを独自開発

主力とする金型事業は顧客の注文に応じて一品一品異なるものを製造する。

金型が製品の出来栄を左右するだけに高い技術力を求められるが、「自社の技術を外にアピールするのが難しい」と森山常務は悩みを語る。このため金型以外にも、成形事業や自社製品開発にも積極的に取り組んでいる。独自開発したアンダーホールナットは、樹脂製のゆるみ止めナットで、自動車や建設機械などの部品として使用されている。



金型加工作業

今後の展望
技術力を武器に
グローバル展開

金型需要は国内に比べて海外での伸びが大きく、グローバル展開がカギを握っている。日本の金型技術は高水準にあり、森山常務は「海外に打って出ること、メイドインジャパンの底力を見せつけたい」と大望を口にする。将来、金型事業をコアに、中国や韓国に比べて日本企業が弱いとされる欧州への進出も夢に描いている。来春をめどにベトナムに工場進出する。ベトナムでは金型メンテナンスとプラスチック製品成形事業を行うつもりだ。ベトナムに限らず海外諸国では金型メンテナンス需要が拡大している。ユーザーが低コストを狙って海外で調達した金型は不具合が発生することが多く、同社がメンテナンスを受け持つことが多い。他社で製作した金型を修正できる会社は少なく、これまでのメンテナンス事業で培ったノウハウを生かして、グローバル展開を進めていく。

COMPANY PROFILE

株式会社 寿精密

当社の歴史

昭和50年、森山勝吉代表取締役が東大阪市寿町でプラスチック金型製造を開始、昭和55年に現在地に本社を移転しました。平成20年には海外での金型調達に対応するため、大阪市平野区にメンテナンス事業部を創設し、第2工場として稼働しました。現在は本社新型工場、第2工場メンテナンス部の体制を敷いています。



お客様が何を望んでおられるかを常に感じ、量産の成形機にマッチした金型づくりを実践。

常務取締役 森山 康賢さん

■主な事業内容

射出成形用プラスチック製品、金型製造、各種ゴム、パッキング製造

■主な取引先(納入先)

自動車部品メーカー、弱電部品メーカー、工業部品メーカー、化粧品容器メーカー、樹脂部品メーカー

住所 / 〒577-0835
東大阪市柏田西
1-14-18
TEL / 06-6720-0990
FAX / 06-6728-5724
創業 / 昭和50年3月
設立 / 平成13年3月
資本金 / 1,000万円
従業員 / 13名

<http://www.kotobukiseimitsu.co.jp>